
ATUI OMOI

ウッチー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ATUI OMOI

【Nコード】

N0251BA

【作者名】

ウッチー

【あらすじ】

田仲 卓工はバスケ部の熱血キャプテンだったがインターハイ予選の試合で相手のベンチに頭から突っ込んで意識を失って気がついた時には……

ブローグ

ここは県総合バスケットボール体育館

バスケの試合が行われている

ガッ

シュートがはずれる。

ボールは高く跳ね上がった。強豪校にしては珍しいパターンだ

「全員ボックス。絶対にリバウンドとるぞ。」

？ボックス

相手を跳ばせないように自分の体を使って相手をとめること

しかし、オレ以外はみんなボックスをしない。もう百点差以上ついている
残り二十秒。

幸いオレの方にボールがとんできた。

が、
オレの相手は180cm対してオレは165cm。

オレは渾身の力をこめて
跳んだ

オレは何とか競り勝ちリバウンドをとった。

速攻だ

オレはみんなに指示をする

しかし、みんなが動かない。

本来、オレはセンターだからドリブルなんてほとんどつかない

？センターおもにゴール下でボールをもらってプレイする

加えて、オレがバスケットを始めたのは高校からだ
ドリブルなんて初心者と変わらない。

オレはかまわず突っ込む

しかし、キープするのがやっとだ、時間が過ぎていく、そこえ

「田仲」

副キャプテンの田代がフォローに入る

オレは田代にパスを出した田代が華麗なドリブルで相手をかわし、オレにパスを送る。

田代「（これがラストパスだ）」

絶妙なパスがオレにくる

だが

相手は強豪校。ラストパスに手をかすめる

ボールはそれで外に出ようとしてる

させるか

残り三秒

オレはライン際のボールに横っ飛びで飛び付き無理な体制でシュートを放った。

パス

ボールはゴールに吸い込まれた。

オレはそのまま相手のベンチに頭から突っ込んだ

そしてオレの意識はなくなった。

第一話 転生？（前書き）

これはキャプテンの転生物語です。

バスケだと思っていたひとすみません????

ですがいろいろな世界に転生させてバスケの話もしたいと考えては
います

当分は野球の話です。
ご了承下さい。

第一話 転生？

あゝついおもい燃やせばそれで心も体もさわやかだ
若い日はみな進んでゆけよ後ろ向くな前だけ向いてゆけよそれが青
春なんだ

聴いたことある歌が流れてる
たしか

『君は何かができる』
だっ たっ け

あれ？ここはどこだ？真っ暗だ

卓工「たしか試合中に相手のベンチに頭から突っ込んで」

「？？？」
「気がついたか？」

卓工「だ、誰ですか？」

いきなり目の前に老人が現れた。

老人「ワシは神様じゃ」

卓工は驚きすぐさま正座し頭をさげた

卓工「御無礼を御許し下さい」

神「私を疑わないのか？」

卓工「とんでも御座いません。私は神様を信じておりますので」

神「苦しゅうない。顔をあげい。普通に話しかまわんぞ」

卓工「はい。僕は死んだのですね。」

神「冷静だな。だがお前はあそこで死ぬはずではなかった」

卓工「？」

神「お前はあそこでボールに追いつかないはずだった。しかし、お前は追いついた。私達としても予想外だった。私達はお前の熱いおもいに感動した。よってお前を転生する」

卓工「どこの世界にですか？」

神「キャプテンの世界だ」

卓工「あの有名な野球漫画の。光栄です。しかし、僕はバスケットで野球経験なんてありませんが」

神「私は神様だぞ。お前は本当はバスケよりも野球方が好きなことはわかってる。」

卓工「流石ですね」

神様「では能力は今のままでいくぞ。チート能力をあたえては面白くない。じゃがあの世界で頑張ればチート能力がつくかもな。なにか質問があるか？」

卓工「それでは一ついいですか？」

神「なんじゃ」

卓工「僕はバスケ部のキャプテンでした。でも僕はバスケは下手だしリーダーシップもない。僕よりも上手くてリーダーシップがある部員はたくさんいました。なのになぜ僕がキャプテンに選ばれたのですか？最後にこれだけはきいておきたかったんです。」

神様「うむ。お前さんのとこの監督はお前さんの熱い気持ちを評価しとったんじゃ」

卓工「熱い気持ち？」

神様「そうじゃ。お前さん達はプロではない。高校バスケットじゃ。高校バスケットに一番大事なのは熱い気持ちじゃよ。じゃからお前さんがキャプテンじゃったんじゃ」

卓工「ありがとうございます。これで思い残すことはありません。

」

神様「じゃあこの穴を通ってゆけ」

卓工は穴を通っていった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0251ba/>

ATUI OMOI

2011年12月31日19時51分発行